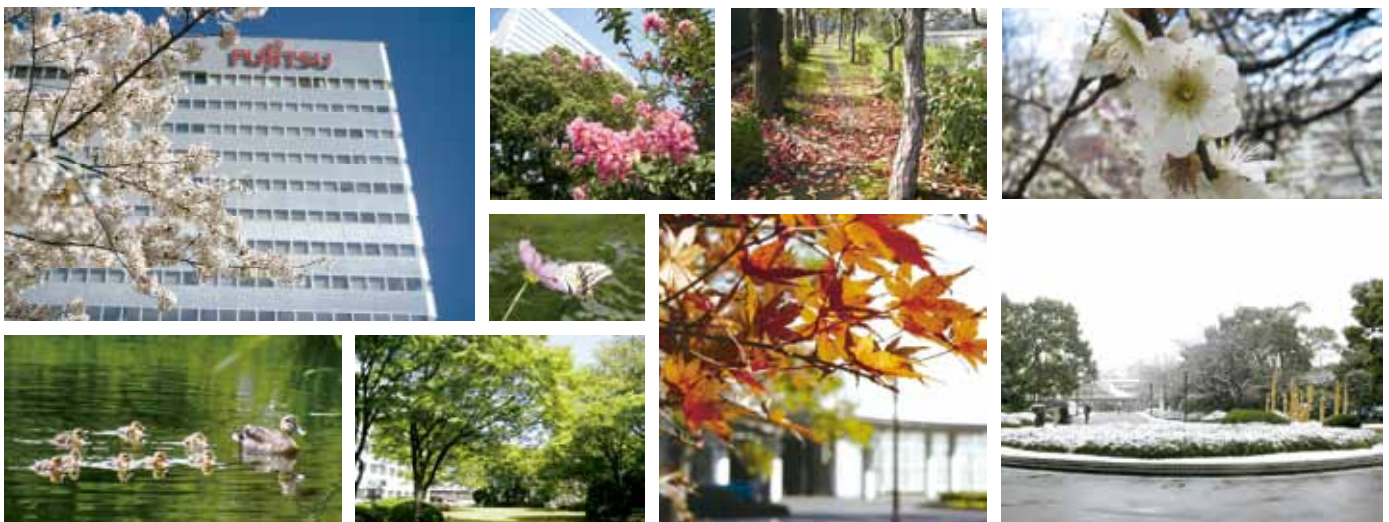


川崎工場 環境報告書

Kawasaki Research & Manufacturing Facilities Sustainability Report

2011

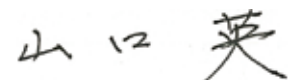


1. ごあいさつ

川崎工場は、富士通グループの中でもっとも歴史のある拠点であり、初代社長の開設時の設計方針である「構内は公園式にする事」をもとに、現在でも工場内には歴史を刻んだ古い樹木、小動物や鳥など多種多様な生物が生息しており、都市化により自然が消えつつある中で、周辺地域にとっても貴重な緑地空間となっています。

富士通グループは、2010年度から「グリーンICT」、「グローバル」そして「生物多様性」をキーワードとする第6期富士通グループ環境行動計画をスタートさせています。川崎工場も行動計画のもと、社員一人ひとりが地球温暖化を含め環境問題を自分自身の身近な問題として捉え、先進的な環境ソリューションやサービス、製品を通じて、暮らしや社会のあらゆるところで環境負荷低減を支援するグリーンICTという強みを生かし、企業として、個人として環境に貢献する取り組みを展開してまいります。

富士通株式会社
川崎工場長



2. 事業所の紹介

1938年(昭和13年)、この地に開設されて以来、川崎工場は常に富士通グループの研究開発の中核としての役割を果たしてきました。当社製品の生産・営業ネットワークの中心として、受注したシステム・製品に関わる全ての研究部門、開発部門、各生産工場を連携・統合するのが川崎工場です。

名称 : 富士通株式会社 川崎工場
 所在地 : 神奈川県川崎市中原区上小田中4-1-1
 開設 : 1938年(昭和13年)10月
 従業員数 : 9,195名(2010年12月末現在)
 敷地面積 : 154,703㎡
 事業内容 : システム・製品に関わる全ての研究、開発、各生産工場の連携・統合業務

shaping tomorrow with you

社会とお客様の豊かな未来のために

3. 環境への取り組み

地球温暖化対策

川崎工場ではエネルギー消費CO₂の排出量を抑制するために、省エネ型設備の導入を行っています。また、社員一人ひとりができるオフィス空調温度の適正化、照明・OA機器の節電などの地道な活動にも取り組んでいます。

■冷凍機更新によるCO₂排出量削減

空調(冷房)に用いている冷凍機を都市ガスを燃料とする直焚吸収式冷凍機から電気式の高効率型ターボ冷凍機に更新し、高効率かつ最適な能力にすることによりCO₂排出量の削減を図りました。



高効率ターボ冷凍機更新

■グリーン電力の使用

川崎工場で開催した春まつり、クリスマスイベントなどにおいて使用される電力のすべてを風力発電によるグリーン電力でまかないました。

■チャレンジ25キャンペーンへの参加

CO₂削減に向けた国民的運動「チャレンジ25キャンペーン」に川崎工場は賛同し企業チャレンジャーとして参加しています。



中原ビル屋上緑化

■屋上緑化の取り組み(富士通ホーム&オフィスサービス㈱)

富士通ホーム&オフィスサービス㈱では所有する中原ビル7階屋上(食堂前)に、緑化施設を構築し、ビル省エネ推進、生物多様化(都市緑化保全)への取り組みなどを推進しています。

廃棄物対策

川崎工場では資源循環型社会をめざして3R(Reduce:発生抑制、Reuse:再使用、Recycle:再資源化)を推進するという基本方針のもと、社員一人ひとりが廃棄物の分別徹底を推進しています。

■廃食用油リサイクル

社員食堂で使用された廃食油(使用済み天ぷら油など)を、灯油・重油などの燃料の代替となる混合燃料に再生できる業者に売却し、リサイクルしています。

■生ゴミ肥料化

社員食堂から発生する生ゴミ(調理屑など)を敷地内で堆肥化し、地元の提携農家に提供、そこで栽培された野菜を社員食堂メニューに取り入れ食品リサイクルループを構築しています。肥料は社内外のイベントなどでも無償配布しています。



肥料配布

■枯葉腐葉土化

川崎工場内緑地から発生する枯葉などを回収し、敷地内で生ゴミ肥料を利用して腐食させ、敷地内緑地で使用する腐葉土として再利用しています。

生物多様性保全

川崎工場では、自社の事業活動が生物多様性に何らかの影響を与えているという認識のもと、社員一人ひとりが、自らの業務と生物多様性との関わりを認識し、環境負荷低減に取り組んでいます。

■生物調査

川崎工場に生息する生物(動植物)の調査を実施し、生物の種類、分布、生育状態などの状況把握をし、樹木の生育が良いシンボルツリーの特定や各種野鳥(カワウ、カワセミなど)、池では鯉の他、スジエビなどの生息も確認されました。

■全国タンポポ分布調査

国内の富士通グループ生物多様性保全活動の共通イベントとして実施された、GPS機能付きの携帯電話使用による「全国タンポポ分布調査」に川崎工場も参加し、全国の在来種、外来種のタンポポ分布状況の把握に協力しました。



川崎工場生物調査

4. 安心・安全な工場への取り組み

OSHMSの構築

労働者の安心・安全、快適な職場環境を形成するため、厚生労働省が指導、勧奨する労働安全衛生マネジメントシステム(OSHMS)に準じた取り組みを推進しています。年間の安全衛生目標を掲げ、安全衛生防災委員会の開催や職場巡視の実施など、「三管理:作業管理、作業環境管理、健康管理」の徹底を図っています。

リスクアセスメント

労働災害を未然に防止するため、危険性又は有害性などの調査とその結果に基づく措置(リスクアセスメント)を実施し、災害リスクの低減及び「先取り型」安全対策の推進を図っています。

5. 環境コミュニケーション



環境社会貢献活動

川崎工場は、地域社会の一員として地域と密着した環境コミュニケーションを行い、地域への貢献と調和を図ります。

■カーボン・チャレンジ等々力(CC等々力)

2009年4月より川崎市、川崎市公園緑地協会、川崎フロンターレと連携して地球温暖化対策に取り組んでいる「カーボン・チャレンジ等々力」は、2年目をむかえ川崎フロンターレのホームゲームにおけるリユース食器回収の社員ボランティア参加の他以下の取り組みも実施しました。(2010年シーズンのリユース食器導入によるCO₂削減効果:572kg-CO₂/杉の木約41本分の吸収する年間CO₂吸収量に相当)

●親子エコスタッフ体験

夏休み期間中に富士通グループ社員の親子参加によるリユース食器回収ボランティア体験を実施しました。

●なかはら打ち水大作戦

8月に富士通フロンティアーズ、富士通レッドウェーブの選手がヒートアイランド対策啓発のために、中原区が主催する打ち水大作戦に参加しました。

■サツマイモ屋上緑化／収穫

ヒートアイランド現象緩和を目的として、2009年度より実施しているサツマイモによる屋上緑化を規模を拡大して実施しました。秋には、サツマイモ収穫イベントを開催し、多くの社員が参加してサツマイモの収穫を楽しみました。

■川崎地区エコポイント制度導入

2010年度から環境社会貢献活動に参加した社員に都度エコポイントを加算し、年度末までの累積ポイントによりエコグッズをプレゼントするという制度を導入し、参加者の増員と参加意識向上に努めました。



CC等々力・親子エコスタッフ



サツマイモ収穫



環境教育・イベント

環境の大切さを知っていただくために、環境教育や各種イベントを実施しています。

■川崎地区環境教育

川崎地区では、社員一人ひとりの環境保全活動への主体的な取り組みを促進するとともに、第6期富士通グループ環境行動計画及び川崎地区環境活動の周知、理解、実践を図るために環境eラーニングを実施しました。

■近隣学校への環境教育

川崎工場では、毎年6月に市内公園のプールからヤゴを救出し、敷地内の池に放流しトンボに羽化させる「ヤゴレスキュー大作戦」の活動を実施しています。2010年度は近隣の川崎市立聾学校小学部の児童を招き、活動についての紹介、ヤゴの放流を体験していただき、自然環境の大切さを学んでいただきました。



川崎市聾学校環境教育

■環境活動紹介

川崎工場での環境への取り組みについて、多くの方に知っていただくため、イベントなどにおいて環境活動の紹介を行いました。また、川崎市地球温暖化対策推進協議会・市民部会などで環境報告書についての意見交換を行いました。



環境活動紹介

■セタライトダウン

環境省が主催する「CO₂削減／ライトダウンキャンペーン2010」に参加し、6月21日から7月7日の間川崎工場本館などのネオンサインを20時以降消灯しました。また、7月7日七夕には社員に定時退社を呼びかけ20時以降の消灯励行及びエレベーターの間引き運転を行いました。



外部表彰 ほか

■かわさきビジネスコンパクトへの参加

グローバルな視野から設定した人権、労働、環境、地域貢献などの課題に対し、川崎の市民、企業、行政などの連携によって解決を目指す「かわさきコンパクト」のうち、川崎市内に本社・事業所を有する企業が、グローバルな経営環境変化を自らの課題として認識し、社会からの要請を踏まえた主体的な活動を展開していくことを促すために策定された「かわさきビジネスコンパクト」に参加しました。

■低CO₂川崎パイロットブランド'10選定

川崎市による低炭素社会のものづくりを応援する制度として、ライフサイクル全体でCO₂削減に貢献している川崎発の製品、技術などを選定する低CO₂川崎パイロットブランド'10に川崎工場で設計された省電力型CPUを搭載したUNIXサーバ「SPARC Enterprise™ Mシリーズ」が選定されました。



かわさきコンパクトロゴ

6. 環境に関わる法規制の順守状況

法規制の順守状況

川崎工場は、環境法規制、条例、協定及び川崎工場が同意したその他の要求事項のうち、川崎工場の活動、製品及びサービスの環境側面に直接関わり、受入れを決めた要求事項などを四半期毎に順守評価しています。2010年度環境関連法令に関わる違反はありませんでした。

地下水の管理

川崎工場では、過去の操業による土壌・地下水汚染が判明しており、地下水の継続的な浄化と監視を実施しています。以下の表では、地下水汚染の敷地外への影響を監視するための観測井戸において、2010年度内に規制値を超える測定値が確認された物質の最大のを記載しています。

物質名	測定値	規制値	浄化状況(2010年度)
シス-1,2-ジクロロエチレン*1	2.5mg/L	0.04mg/L以下	汚染源と推測される場所及び敷地境界での継続的な揚水処理を実施
ひ素及びその化合物*2	0.035mg/L	0.01mg/L以下	

*1 使用履歴のあるトリクロロエチレン、1,1,1-トリクロロエタンの分解生成物質。

*2 最大値が検出された観測井戸周辺では検出された物質の使用履歴がなく、自然由来によるものと判断しています。

騒音および振動の測定

川崎工場では、騒音及び振動の測定を敷地境界において定期的実施しており、法令基準を順守していることを確認しています。

大気汚染

川崎工場では、燃焼施設(ボイラーなど)の燃料を都市ガスに変更することで、ばい煙の発生抑制に努めています。ばい煙発生施設については、定期的に排ガス測定を実施し、各施設が法令基準を順守していることを確認しています。

水質汚染の防止

川崎工場内で研究開発などにより発生する廃水は、すべて回収もしくは工場内に設置されている廃水処理施設で処理し、下水道へ放流しています。回収した廃水は、法令上の許可を受けた処分業者に処理を委託し、適正な処分を行っています。また、廃水処理場からの廃水は定期的に測定し、法令基準を順守していることを確認しています。

化学物質管理

化学物質管理システム「FACE」を運用し、川崎工場内で使用する化学物質の登録、収支管理を行っています。また、化学物質の適正な使用、管理のため、外部から講師を招き化学物質取扱者を対象に教育を実施しています。

7. 環境マネジメントシステム(EMS)

EMSの構築・運用状況

富士通グループは2005年度に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001のグローバル統合認証を取得し、国内外グループ会社が一つのマネジメントシステムのもとで環境活動を行っています。川崎工場もその一員として環境マネジメントシステムを運用し、継続的改善に努め環境監査の実施などにより環境経営を推進しています。

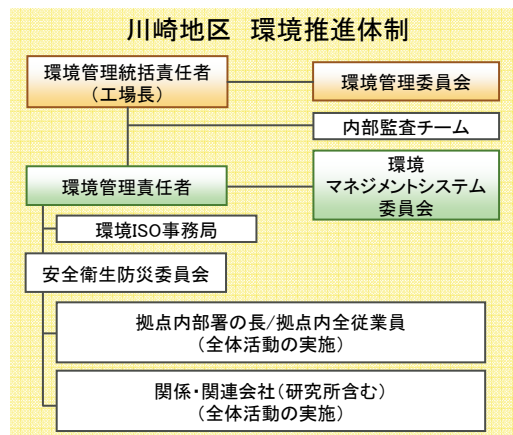


環境推進体制

川崎地区の環境活動は、川崎地区環境マネジメントシステム委員会において実務の推進、環境管理委員会において審議の推進を行っています。

外部監査・内部監査

川崎地区では、環境マネジメントシステム(ISO14001)の規格要求事項を満たすべく毎年、内部環境監査を実施しています。また、第三者機関(JACO)による外部審査を受け、システムの有効性、適合性、妥当性を確認し、維持、向上に努めています。



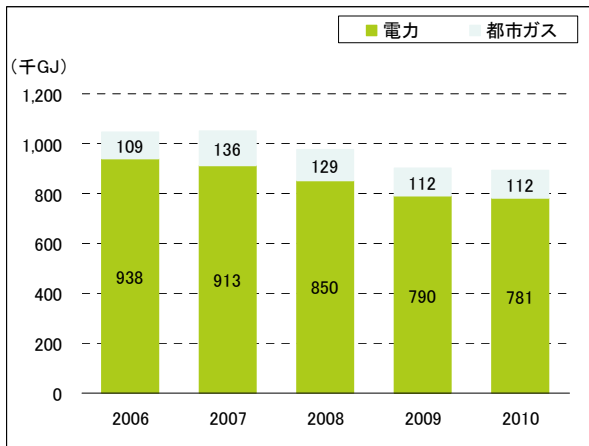
8. 環境負荷データの経年推移



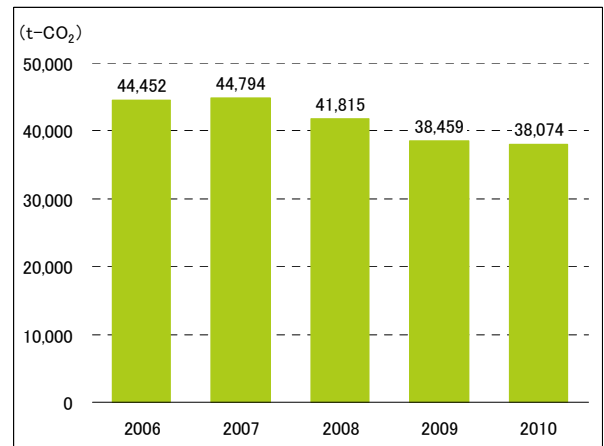
環境負荷低減活動

* 2010年度については、2010年4月～12月は実績値、2011年1月～3月は見込み値

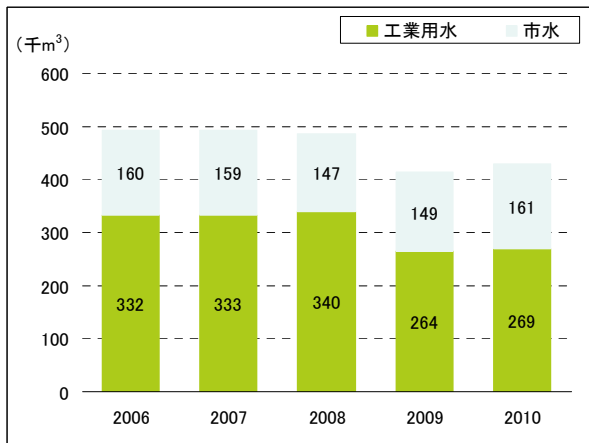
■エネルギー消費量



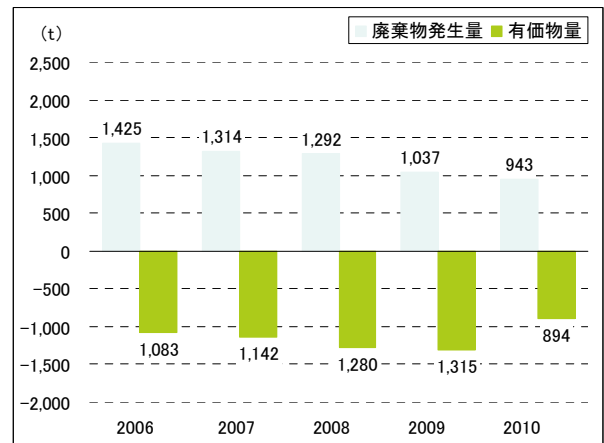
■CO₂排出量



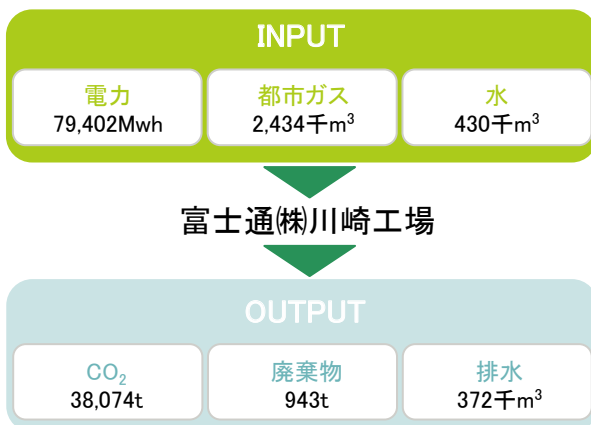
■水の使用量



■不要物発生量



■マテリアルバランス



INPUT	
電力	2010年度の川崎工場における消費電力量
都市ガス	2010年度の川崎工場における都市ガス消費量
水	2010年度の川崎工場における市水、工業用水の使用量

OUTPUT	
CO ₂	2010年度の川崎工場におけるエネルギー消費に伴うCO ₂ 排出量
廃棄物	2010年度の川崎工場において発生した廃棄物の量
排水	2010年度の川崎工場から下水道に排水された量

9. 環境方針

富士通は、1935年の創業以来、「自然と共生するものづくり」という考えのもと、環境保全を経営の最重要事項の一つと位置づけ、富士通グループの事業の独自性を反映させた環境経営を推進するために「富士通グループ環境方針」を定めています。川崎工場では、富士通グループ環境方針に基づき、独自の環境方針と重点テーマを定め、環境マネジメント活動に積極的に取り組みます。

環境方針

川崎工場は地域環境との調和をコンセプトとする「池と前庭のある公園式工場」として誕生し、現在も都市化が進む中において、多摩川や川崎市等々力緑地と連携した地域全体の貴重な緑地空間として、その基本方針を引き継いでいます。川崎地区は川崎工場を中心とした複数事業所で構成され、当社製品に関わる全ての研究部門、開発部門、各生産工場を連携・統合する富士通グループの研究開発の中核であるとともに、地域と隣接する都市型活動拠点であることから、工場開設時のコンセプトを大切に継承しつつ、地区の特徴を最大限に活用しながら『人と環境が融合した透明性のある環境活動』を基本理念として、以下の方針に基づき環境活動を推進します。

- (1) ISO14001に基づき構築した環境マネジメントシステムにより環境保全活動を推進する。
- (2) 当工場の活動、製品、サービスに関わる環境側面を常に認識し、環境汚染の防止を推進するとともに環境マネジメントシステムの継続的改善を図る。
- (3) 当工場の活動、製品、サービスに関わる環境関連法規、協定、自主基準及び組織が同意したその他の要求事項などを順守する。
- (4) 良き企業市民として、環境保全活動への協力や情報提供、社会や地域における環境政策への支援・協力を積極的に行う。
- (5) この環境方針の達成のため、環境目的・目標を設定し、当拠点内の関係・関連会社を含む全部門全社員をあげて環境活動を推進する。
- (6) 本環境方針、目的・目標は、年1回定期的に見直す。なお、見直す必要が生じた場合は、環境管理統括責任者の判断で適宜見直す。
- (7) 本環境方針、目的・目標は、川崎地区環境マネジメントマニュアルで定義した適用範囲に基づき、当拠点及び当拠点のために働く全ての人々に周知するとともに、必要に応じ、社外にも開示する。

重点テーマ

川崎地区は川崎工場(大規模事業所)を含む複数事業所で活動しており、開発・設計に伴う事業活動の環境負荷が大きいため、活動、製品、サービスに関わる次の項目を環境活動の重点テーマとして取り組み、社員一人ひとりの環境意識向上に努めます。

環境負荷低減の強化

- 省エネルギー推進によるCO₂排出量の抑制(再生可能エネルギーの導入など)
- 廃棄物総発生量の削減とリサイクル化の推進
- 重点化学物質排出量の抑制

環境経営基盤の強化

- 環境マネジメントシステムの継続的改善
- 川崎地区環境活動の認知度向上

社員の環境マインドの更なる向上

- 環境社会貢献活動(ボランティア清掃、花壇植栽など)

生物多様性保全活動の推進

- 生物多様性啓発活動(屋上緑化、壁面緑化など)

富士通株式会社

お問い合わせ先

川崎工場 環境管理部
〒211-8588 川崎市中原区上小田中4-1-1
TEL: 044-754-8976 FAX: 044-754-2524

発行責任者 山口 英
編集責任者 小島 信洋
発行年月日 2011年4月
記載事項対象期間 2010年4月～2011年3月



この報告書には、環境にやさしい、FSC®森林認証紙、ノンVOCインキ、有害な廃液をださない水なし印刷方式を採用しています。